

式 辞

中京大学で学び、本日、ご卒業を迎えられた皆さんに、心よりお祝いを申し上げます。誠におめでとうございます。ご卒業される皆さんを温かく励まし、支えてこられたご家族やご親族の方々にも深く感謝を申し上げるとともに、お慶びを申し上げます。

4年前の2021年、キャンパスはコロナ禍にありました。皆さんが入学された4月から、原則的に面接授業、すなわち通学による対面授業を再開させたものの、新型コロナウイルスに対する警戒感が、払拭されたわけではありませんでした。感染防止対策の徹底が求められ、重苦しさが残っている中で新たな学生生活がスタートすることに、皆さんの気持ちも、春爛漫と浮き立つばかりではなかったことと思います。

その2年後の2023年5月には、感染法上の分類引き下げが行われ、社会は平時の体制に戻りましたが、皆さんの大学での日々が、コロナによって大きな影響を受けたのは、否定しようのない事実です。仲のいい友人と食事をしたり、会話を交わしたりといった、本来なら何の気兼ねもなく楽しめたはずの時間が、たとえ一定の期間だったにせよ、皆さんから奪われてしまったことは、とても残念でなりません。

ただ、そうした厳しい状況にくじけることなく、皆さんは学業に、そして部活動に、本当によく頑張り、中京大生の本分をしっかりと貫いてくれました。体育会の活動をとってみても、この1年でいえば、水泳部、スケート部、硬式野球部、女子ソフトボール部、アメリカンフットボール部などをはじめ、多くの部が全国レベルの大会で目覚ましい成績を残しました。文化会の皆さんも、それぞれの分野で修練を重ね、確かな成果を収めました。

もちろん学業にしろ、部活動にしろ、満足できる結果を残して十分にやり切った、と言える人は少数でしょう。もっとうまくやれたのではないか、あそこでこうしておけばよかった、と悔いが残っている人がほとんどだろうと思います。しかし、何より誇りに思っているのは、皆さん一人一人が地道に努力を重ね、自らを成長させ、卒業を迎えることができたという事実です。自分たちは大きな試練を乗り越えたのだ、という自信を持って、新たな目標に向かって行ってほしいと思います。

学校法人梅村学園は一昨年、2023年に創立100周年という大きな節目を迎えました。そして中京大学は昨年、2024年に開学70周年を迎えました。中京大学の学部卒業生と大学院修了生の延べ人数は、今日、皆さんが新たに加わったことによって、15万人を突破することとなりました。大勢の先輩が社会のさまざまなところで活躍しています。この先、先輩たちと、どんな出会いや交流が待っているのかも楽しみにしながら、第一歩を踏み出して行ってください。

国際秩序は今、大きく揺らぎつつあります。ロシアのウクライナ侵攻から3年が経過し、早期の停戦に向けた動きが期待されていますが、そこで最も注目を集めているのはロシアでもウクライナでもなく、4年ぶりに返り咲いたアメリカのトランプ大統領です。トランプ氏は自国第一主義を掲げ、経済や外交、環境、ジェンダーなど、あらゆる分野で大胆な政策転換を図ろうとしています。その中には時代に逆行していると思えるものもありますが、過激な主張が一定の支持を得ているのもまた事実であり、アメリカ社会の変容を示しているといえるでしょう。

フランスの歴史人口学者、エマニュエル・トッド氏は、昨年刊行されて話題になった著書『西洋の敗北』の中で、アメリカは、近代社会発展の基盤となったプロテスタンティズムの価値観を喪失してしまったと指摘し、産業や社会の行く末について、極めて厳しい見方を披露しています。こうした仮説がどれだけの的を射ているかは議論の分かれるところでしょうし、トランプ氏の進める路線がこの先、修正される可能性もあるでしょう。しかし、「民主主義と自由経済を掲げるアメリカがグローバリゼーションを牽引する」という従来の常識は、もはや当たり前ではなくなつた、と断言でないとはいえません。ウクライナや中東の情勢は依然、予断を許さないものがあり、トランプ氏の率いるアメリカがどのように動き、ヨーロッパ各国やロシア、さらに中国との関係がどう変わっていくのか、注意深く見守っていかなければなりません。

ややもすれば世界全体が分断に向かいかねない中であって、日本の立ち位置も改めて問われることになるでしょう。そのときに考えなければならないのは、私たちが一番大切にすべきものは何か、ということです。人によって答えはさまざまでしょうが、共通するものがあるとなれば、人々の自由と権利が保障され、平和が保たれている、という社会のありかたではないでしょうか。だとすれば、それを守り、次の世代に引き継いでいくために、私たちは何をすべきか。目先にとらわれることなく、将来を見据えた議論を重ね、社会的な合意を形成していくことが必要だろうと考えます。

皆さんにとっても、非常に難しい時期に社会に向かうこととなりますが、中京大学で培った「自ら考え、行動することのできる力」を、新しい舞台で存分に発揮してもらいたいと願います。フェイクニュースも含め、膨大な情報が飛び交う世の中だからこそ、判断を人に丸投げしたり、前例踏襲で良しとしたりするのではなく、できる限り自分自身で考え、決断して行ってください。社会に主体的に関わり、新たな価値を創造していく。そんな意識を持って日々の行動を積み重ねていってこそ、皆さんが主役としていきいきと輝ける時代がやってくるはずです。

最後になりますが、中京大学は、教育と研究に加え、社会連携・社会貢献についても一層の強化を図り、地域や社会にとって、なくてはならない大学として発展していけるよう、これから先も改革を進めてまいります。学園創立以来の理念

である校訓「真剣味」、建学の精神「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」を礎に、卒業生の皆さんにとって、さらに誇り得る母校としていくことをお約束致します。

中京大学で過ごした日々を胸に刻み、常に新しいものを学び、挑戦を続けていってください。順風満帆なときばかりではありません。逆風や挫折に直面し、自信を失うこともあるでしょう。しかし、それを乗り越えた暁にはきっと、それまで見えていなかった光景が目の前に広がっていることに気がきます。勇気を持って、道を切り拓いていってください。今後、皆さんがさらにたくましく成長されることを願っています。

本日はご卒業、誠におめでとうございます。

2025年3月19日

中京大学長
梅村清英